

2026年3月18日

報道各位

住友林業株式会社

「第5回日経統合報告書アワード」準グランプリを初受賞

住友林業株式会社(社長:光吉 敏郎、本社:東京都千代田区)は株式会社日本経済新聞社が主催する「第5回日経統合報告書アワード」で「準グランプリ」を初受賞しました。

「日経統合報告書アワード」*は企業の財務・非財務情報を統合した価値創造の発信と投資家との建設的な対話を促すため、多角的な評価を通じて優れた統合報告書を表彰するものです。第5回となった今回は504社・団体が参加しました。

※日経統合報告書アワードHP: <https://ps.nikkei.com/nira/>



当社の「統合報告書 2025」は長期ビジョン達成に向けた中期経営計画「Mission TREEING 2030 Phase2」(以下「新中計」)を詳しく説明しています。再生可能な自然資本である「木」を軸にしたバリューチェーン「ウッドサイクル」を回し、「森林」、「木材」、「建築」、「エネルギー」の各分野で脱炭素社会・ネイチャーポジティブの実現などへ貢献するという、当社の価値創造ストーリーについても説明しています。新中計への期待などをテーマにした社外取締役による座談会の内容も新たに掲載しました。



「統合報告書 2025」に対する審査員からの主なコメントは、以下の通りです。

- ✓ 環境問題を中心に自社と関わりの深い社会課題をわかりやすく整理し、事業活動を通じた解決を成長の源泉とする考え方が明示されている。
- ✓ 最初のページに2025年版のポイントを記載して、導入部分として分かりやすい。社外取締役のページは座談会形式でグローバルガバナンスや取締役会のあり方、事業の経済的付加価値創出につながる財務インパクト(稼ぐ力)の可視化など、投資家の関心事について同社内で課題がしっかり議論、監督、提言できていることが伝わった。
- ✓ 長期ビジョンに向けたロードマップや前中計の振り返り、新中計の説明を詳細な数値と説明を絡めて開示され、これまでの展開と今後の方向性をとてもイメージしやすい内容になっている。
- ✓ 事業が森林や木材と深く関連しており、持続可能な社会の構築、ネイチャーポジティブの実現に向けた取り組み、サプライチェーン全体の影響、リスク・機会分析など様々な視点で定量データとして開示されている。

※日経統合報告書アワード一次審査レポートより内容を抜粋。

当社は株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆様に自社への理解を深めていただけるよう積極的に情報を開示しています。今後も引き続き当社の企業価値、事業戦略、ESGへの取り組みなどの開示情報の充実を追求し、ステークホルダーの皆様に積極的にタイムリーな情報発信に努めていきます。

《お問い合わせ先》

住友林業株式会社

コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ 李

TEL:03-3214-2270